

学校経営過程研究における方法論の考察：ミドル・アップダウン・マネジメントを視座としたM-GTAによる分析

畑中，大路

<https://doi.org/10.15017/1441011>

出版情報：九州大学，2013，博士（教育学），課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済



論文審査の結果の要旨

本論文は、学校経営過程分析の新たな研究方法論として、M-GTA (Modified Grounded Theory Approach) の可能性を提示するものである。教育経営学はこれまで、教師・子ども・保護者・地域住民等の相互作用でなされる複雑な学校経営プロセスを捉える方法論を模索してきたが、本論文はその解決策を提示するものであり、高く評価できる。

また、本論文の分析視座として設定した学校組織におけるミドル・アップダウン・マネジメントは、近年期待が高まるマネジメントスタイルである一方で、その内実は明らかでなかった。その点、本論文は二つの事例研究と M-GTA を用いた分析を通じ、ミドル・アップダウン・マネジメント実現要因とそのプロセスを描き出すことに成功している。さらに上記分析を通じ、ミドル・アップダウン・マネジメントを担うミドル教員は、発生する課題に応じて流動的に変化しており、そのミドル教員は周囲の承認を経て生み出される存在であることを明らかにした。この知見は、ミドル教員を職位・年齢で捉える従来の研究に対し、再定義の必要性を提示するものである。

以上のように、本論文は従来の研究では示し得なかった重要な知見を導き出すものである。よって本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。